

ノーリフティングケアへの 取り組み

～安心安全なノーリフティングケアを目指すために～

社会福祉法人 大島福社会
特別養護老人ホーム 阿育苑
介護主任 河田 諭

あしよかえん

特別養護老人ホーム 阿育苑

所在地：愛媛県今治市吉海町仁江262番地1

開設：平成6年4月

定員：53床

(ショートステイ併設16床)

平均年齢：88.6歳

平均介護度：4.4

特養職員人数：38名



ノーリフティングケア導入への経緯

以前より「ノーリフティングケアケアを取り組みたい」という意識はありましたが、なかなか現場で浸透せず福祉用具もうまく活用することができていませんでした。

「持ち上げない・抱え上げない・引きずらない」ことを前提に、介助する側・される側双方の心身に負担のかからないケアを、職員体制が整った現在なら可能と判断し、今一度目指したいと考えました。

また取り組むにあたって、正しい知識を勉強したいと思いノーリフティングケア普及啓発事業への参加を決意しました。

取り組んだ課題

1. 福祉用具の正しい知識と技術を身に着ける



ノーリフティングケアの考え方に対しては数年前より共感し、移動式リフトやその他福祉用具の購入をすすめていましたが、正しい使い方が分からない状態で介護現場ではなかなか浸透しませんでした。

具体的な取り組み

ノーリフティング普及啓発事業への参加



研修を受けることで正しい福祉用具の使い方を学ぶことができました。

具体的な取り組み

学んだ知識を復習する時間を作る



個別研修で学んだ事を職員会で再度復習しました。また個別研修に参加できなかった職員もいたので全体に周知することができました。

取り組んだ課題

2. 利用者様のベッド上での過ごし方を見直す

目的：生活する中ベッド上で安楽な姿勢が保て、筋緊張軽減や拘縮予防に努めることができる。

方法：ポジショニングの見直し

介護職員は介助をする上で必要な身体の構造や動きの基礎を学び身体とベッドの接触面の方向や圧を確認する力を身につけていく必要があると考えます。

具体的な取り組み

個別研修を受けポジショニングの知識を学ぶ



個別研修にて姿勢の見方・整え方を学ぶことができました。

具体的な取り組み

講師の助言を元にポジショニングの見直しを行う



ポジショニングの見直し



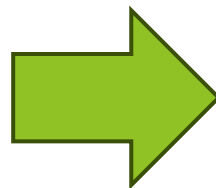
不足していたクッションの購入

具体的な取り組み

クッション購入後にポジショニング実施



ベッドと身体の間が多く
全身に力が入っていた



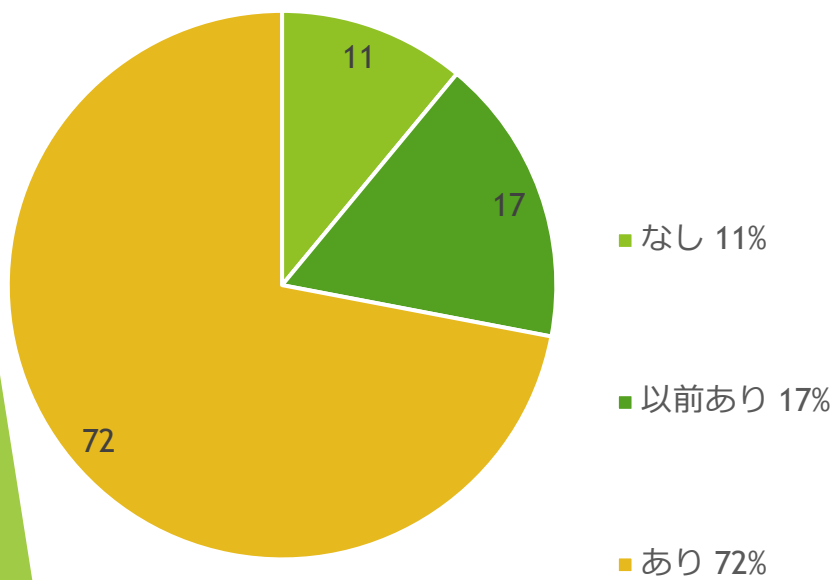
クッション使用後は上肢の力も抜けてリラックスした表情
となっていた

講師から得た助言内容を写真付きでベッドサイドに提示し各職員が統一したポジショニングを実施することができた

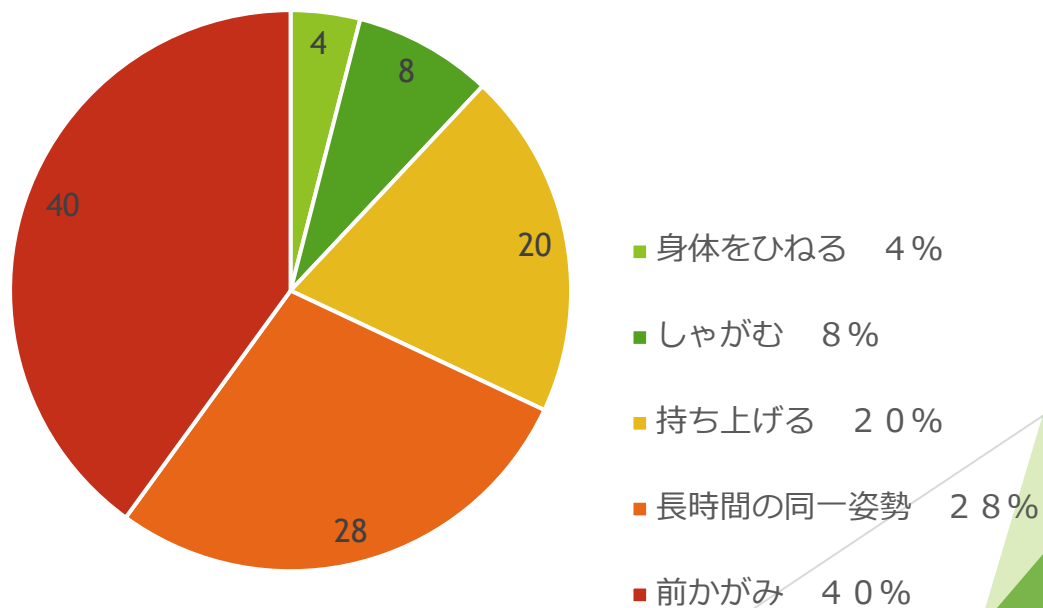
取り組んだ課題

3. 職員の腰痛軽減

現在の腰痛状況



負担の大きい介助姿勢



具体的な取り組み

介助する時に負担のかからない身体の使い方を学ぶ



ノーリフティングケア導入後の職員の变化

他部署の理学療法士の助言・指導も受けて、車椅子・ベッド上での安楽姿勢を意識する事ができるようになりました。



今後の課題

- ・ 福祉用具を現場で使用していく為には何度も復習していく必要あると感じました。職員がいつでも練習できる場所と時間を設けていく。
- ・ 利用者のアセスメントシートを作成し状態に合わせた福祉用具の選定をしていく。
- ・ 12月中旬から2月中旬にかけて施設内でクラスター感染が発生しノーリフティングケアの取り組みが行えなかった。導入後アンケートは後日提出します。

今後の取り組み

隔離期間が長期化するとADLの低下が見られる利用者もおられました。

隔離対応時でも行えるケアを検討していく。

今回研修で学んだことを継続して行けるようにノーリフティングケアの取り組みを進めていきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

